

若者のための能動的な労働市場プログラムは雇用と収益を増やす効果はプログラムとその内容により異なる。



エビデンスによると、
技能訓練や起業の促進などの
能動的な労働市場プログラムを
通じての若者への投資は、
有益となり得る。

このレビューの目的は？

このキャンベル・システムティック・レビューは、若者雇用への介入が与える労働市場とビジネス業績結果への影響を調べる。レビューは31カ国で行われた107件の介入からの113件の報告をまとめる。

若者は、不均衡に失業と質の低い職業の犠牲者である。能動的な労働市場プログラムは、収益と雇用を増やす。しかし、効果はプログラムの種類、デザイン、内容により大きく異なる。

レビューは何を調べたのか？

若者の失業は、一般成人の平均失業率に比べてはるかに多く、場合によっては、三倍以上となる。今日では、世界に7300万人の若者が失業となっている。その上、労働力人口の5人に2人の若者は、働いているにも関わらず貧困、もしくは失業状態である。若者雇用における挑戦は、就職先を増やすことだけではなく、若者のために、仕事の質を高めることが、特に重要である。

この系統的レビューは、若者雇用への介入が労働市場へ与える影響を調べる。含まれた介入は、技能訓練、起業の促進、就業サービス、雇用関係助成金である。着目する結果は、就業、収益とビジネス業績である。

どの調査が含まれているか？

含まれた調査は：(1) 15歳から35歳までの若者を対象とした、能動的な労働市場プログラム (ALMP) を評価しているもの；(2) 実験もしくは準実験的研究デザインであるもの；(3) 少なくとも雇用、収益もしくはビジネス業績の中の一つを結果として測定し、報告しているものを対象とした。

基盤となる証拠は31カ国で行われた107件の介入であり、その内55件は技能訓練、15件は起業の促進、10件は就業サービス、21件は雇用関係助成金を含む。

レビューの主な結果は？

全体として、若者雇用への介入は、参加した若者の雇用と収益を増やす。しかし効果は少なく、プログラム間により異なる。起業の促進と技能訓練は、有意に効果があるが、就業サービスと雇用関係助成金にはない。



どのぐらい最新の情報が含まれているか？

レビューの著者は、2015年1月までに出版された調査を検索した。このキャンベル・システマティック・レビューは2017年12月に出版された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画は、系統的レビューを出版する国際的かつ自発的な非営利研究ネットワークである。我々は、社会科学と行動科学において、プログラムについてのエビデンスの質を評価しまとめている。我々の目的は、人々のより良い選択と、より良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、キャンベル・システマティック・レビュー 2017:12 「Improve the Labour Market Outcomes of Youth: A Systematic Review of Training, Entrepreneurship Promotion, Employment Services and Subsidized Employment Interventions」著者 Jochen Kluge, Susana Puerto, David Robalino, Jose Manuel Romero, Friederike Rother, Jonathan Stöterau, Felix Weidenkaff, Marc Witte (DOI 10.4073/csr.2017:12)を基にして Howard White (キャンベル共同計画)により準備が行われた。その後、要約は Tanya Kristiansen (キャンベル共同計画)によりデザインと編集が行われた。American Institutes for Researchによる本要約作成への財政支援を謝辞する。



収益に対する影響もまた、ポジティブではあるが、少なく、プログラムによって大きく異なる。起業の促進と技能訓練は、収益を増すことに効果があったが、就業サービスと雇用関係助成金の効果はわずかであり、統計的に有意ではなかった。若者雇用プログラムのビジネス業績結果への効果は限られており、効果量は統計的に有意ではなかった。

プログラム間の異なりに加えて、いくつかの異なりは国事情、介入のデザイン、プログラムの受益者の特徴により説明がつく。ALMPは、低、中所得国が高所得国に比べて桁違いに大きい影響を受ける。最も不利な若者をターゲットとしたプログラムは、特に収益の結果において、より大きい効果を持ち、効果は男性よりも女性に対して若干大きかった。

このレビューの知見は何を意味するのか？

エビデンスによると、能動的な労働市場プログラムを通じた、若者への投資は有益となり得る。技能訓練と起業の促進による介入は、平均的に有意な効果を持つ。つまり、若者を労働市場で支援するために、需要側と供給側の介入を混ぜ合わせることで、有益となる可能性がある。

エビデンスは、注意深く若者雇用への介入をデザインすることの必要性を示している。「何」をするかよりも「どのように」するかが重要であるだろう。この点において、不利な若者をターゲットとすることが、成功の重要な要因となるだろう。

基盤となる証拠を強める必要性があり、より多くの有望なプログラムの調査、特にサブサハラアフリカでの調査が必要となる。今後の研究では、中間結果、ソフトスキルを調べ、費用のデータを収集すべきである。